

診断あきた

◆発行者 一般社団法人 秋田県中小企業診断協会 ASCA
所在地 〒010-0013 秋田市南通築地1番1号
郵便物 〒010-8799 秋田市保戸野鉄砲町5-1
秋田中央郵便局私書箱第25号
ホームページアドレス <http://www.shindan-akita.com/>



令和元年9月1日

第27号

巻頭言



『設立35周年にあたって』

会長 佐瀬道則

「令和」という新しい年号となり、秋田県中小企業診断協会は、平成24年4月の一般社団法人化から足掛け8年目、また昭和59年（1984）の県支部設立からは35周年という節目を迎えました。

1. 活動の状況

昨年度は各県協会と足並みを揃えて「中小企業診断士の日（11月4日）」関連イベントとして11月10日に「しんだんしフェスタ」を開催し、東北経済産業局経営支援課の中村課長補佐から「経営発達支援計画の概要について」、ハバタク株式会社の丑田社長から「ドチャベン（土着ベンチャー）～秋田発の起業家創出に向けた取り組み～」と題して、それぞれご講演いただきました。

またオープンセミナーを2回開催し、斉藤光学製作所株式会社の斉藤伸英氏及び大樹氏から「斉藤光学製作所経営の考え方～秋田で成長目指し、事業承継へ～」、NPO法人秋田移住定住総合支援センター理事長の荒谷紘毅氏からは「秋田県再生への私見」というテーマでご講演をいただきました。

2. 主要課題への対応

一昨年に設置した「事業承継・再生支援研究会」は、地域の中小企業が抱える主要な課題を研究し対応力を向上させるために、会員有志による自主的活動としてスタートさせたものです。

事業承継と企業再生の問題は表裏一体で年々深刻さを増しており、地域経済の活力を維持して行くためにも関係機関等との連携を強化しながら活動を継続して行くとともに、現在進行中の「中小企業強靱化法」関連の事業継続力強化に向けた支援への準備も進めて行きたいと考えています。

3. 設立35周年にあたって

冒頭で触れた通り、今年度は本県協会の設立から35周年目となりました。これまで協会の礎を築き、中小企業診断士の知名度アップと会員の資質向上に取り組んで来られた諸先輩方に敬意を表するとともに、診断士の持つノウハウやスキルが年々重要性や必要性を増して来ていることも実感しております。

この間認定支援機関制度の創設から政府の諸施策を実行して行くうえで診断士の果たす役割と、それに期待する声は日増しに強くなっており、受験者数が増加傾向を維持していることがそれを証明しています。

本県協会設立35周年にあたり、会員各位の「品質の更なる向上」と「中小企業診断士のブランディング戦略」に引き続き取り組んで行く所存です。

関係各位におかれましては、当協会及び所属会員に対し、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。会報発行のご挨拶といたします。



『秋田県中小企業診断協会の 35周年記念に寄せて』

工藤 義和(第5代支部長)

1 協会35周年記念紙発刊へ

秋田県中小企業診断協会設立35周年を迎え、誠にありがとうございます。私は当初からの会員で、途中本間先生から支部長職を引き継ぎ、法人化される迄の数年間、最後の支部長として、無事に任期を終えました。

その後、私は重病(脳溢血、後縦靭帯硬化症)を患い、休止期間を経て、数年前に現場に復帰したのですが、現在の当協会の活性化には驚いています。佐瀬先生の指導力の賜物とは承知していますが、会員個々の高い資質と努力の結果だと思わざるを得ません。際立っているのは、何とんでも協会主催の「オープンセミナー」でしょう。おそらく地域経済界の活性化に必要な情報発信源になるものと思われま。35周年記念にあたり、協会のなご一層の発展を願ってやみません。

2 診断士時代の想い出

①銀行勤務時代

私が診断士登録をしたのは、昭和47年(1972年)なので、約半世紀前になります。当時、私は地方銀行に勤務しており、銀行の「経営相談室」を主幹していました。勤務の殆どは、50店舗余ある営業店に出張し顧客の相談に応じるわけですが、一日2件か3件が限度でした。要望が多く、各支店長が顧客を選別していた様です。勢い各店舗の優良顧客(企業経営に成功している人々)が選ばれていました。つまり、毎日の様に、企業経営の成功者と面談していたわけです。

私は一ヶ月もたたないうちに成功者のある共通点に気づかされました。どの支店の相談者も人物の雰囲気似ているわけです。一言で言い表すならば「人格者」と言うことです。殆どの経営者の経営理念の基本は「信用」でした。私に対する相談の内容を分析すれば、顧客へのサービスを向上させるには如何にすべきか、社員への待遇改善の良い方法はないものか等々自己の利益よりも他者に対する配慮で精一杯と言うものでした。私は企業経営者を指導すると言う立場にありながら、その様な方々から指導されていた様に思います。誠に幸運でした。

一方で笑えない事実があります。私は以前支店営業所勤務時代に不良債権者(事業に失敗し銀行借入金を返済できないでいる顧客)の担当をさせられたことがあります。毎日のように不良債権者を訪問し、善後策

を模索していたわけですが、その時の彼等の説明が、「経営相談室」を訪れた成功者の人達の相談内容と真逆であったことです。例えば、自分の事業が上手くないのは、地域に優良顧客が少ない、地方なので優秀な社員が集まらない、行政の対応がなっていない、と言った具合です。つまり、経営が上手いかならないのは、全て他者のせいでした。企業経営における貴重なヒントを与えられた時期だった様に思います。

②独立開業以降

昭和48年(1973年)家庭の事情により出身地の横手市で独立開業しました。銀行時代の人脈のせい、業務は比較的順調に滑り出した様に記憶しております。ただ、現在の様にネットが普及しておらず、遠距離の企業のオファーの受入れがままならなかったため、思いあぐねた末に一冊の本を発刊しました。

前項で述べた様に企業経営に成功した人達の経営ノウハウを出来るだけ簡素な文章で記述し、私の知っていることはこれ位だからあとはもっと偉い先生を委嘱してください、との趣旨でした。結構な部数が配布されたと記憶しています。貴重な経営ノウハウを私が独り占めすべきでないとの気持ちもありました。独立開業後の診断業務は一貫してこの様な心境のもとに推移して来た様に思っています。

3 令和新時代にむけて

令和の時代に入り、世の中が急に慌ただしく感じられるのは私だけでしょうか。米中貿易戦争や日韓関係の悪化は、すでに国内の中小企業の経営環境に悪影響が出始めている気配があり、少子高齢化の荒波の中で苦悩している中小企業を更に苦境に追い込んでいます。我々診断士はこの様な環境の中での業務となりますので、必然的に何らかの改革に迫られるものと思います。

ここでは、日頃思っていることについて、二三の感想を述べてみたいと思います。

第一に「中小企業診断士」に対する世間の認知度が一般的に低い様に思います。その原因がどこにあるかは分かりませんが、研究課題ではないでしょうか。

次に、職務上諸々の政府の中小企業施策に対応すべきことは当然のこととして、中小企業の実情に最も精通している立場から、診断士は中小企業政策に対し積極的に提言する機能を持つても良いのではないかと考えています。現在、特に深刻な問題として後継者不足が言われていますが、一般には少子化時代だからと片付けられているものの、実態は後継者はいるものの後継しない所謂後継拒否が多い様に感じられます。会員皆様の叡智を期待してやみません。



『35周年を振り返って』

古 木 智

会員歴32年

協会の前身である社団法人中小企業診断協会秋田県支部が創立されてから今年が35年目ということです。

会員の皆様と共にこの節目の年をお祝いしたいと思います。

私が中小企業診断士として登録したのは昭和62年(1987年)4月でした。登録と同時に秋田県支部に入会しましたので、会員歴は32年ということになります。

事務局担当時代

私にとって、32年の会員歴の中で転機となったのは、平成9年(1996年)に当時の武田支部長の下で支部の事務局を担当することになったことでした。しかし、武田先生はその年の8月に急逝され、まさにこれから支部運営を一緒に担わせていただいたくという時にご逝去されたことは誠に痛恨の極みでした。

その後、新支部長に就任された本間支部長の下で理事兼事務局長として平成15年まで事務局を担当しました。

事務局を担当していた間の平成12年(2000年)5月現在の支部会員名簿が手元に残っていました。

この名簿によりますと、当時の会員数は22名で、内14名が企業内診断士、2名が公務員、6名が企業経営または自営、他士業との兼営という構成になっています。

企業内診断士の割合が6割で、公務員も含めると7割を超えているという状況でした。今でも組織内診断士の数が多いわけですが、当時は圧倒的に組織内診断士の割合が高くなっていました。

そして、現在でも言われることですが、組織内診断士にとって、診断協会に入っていることのメリットは何か、また、中小企業診断士の認知度を向上するためにはどうしたらよいか、ということが度々議論されていました。

そうした中で、支部の一つの方向性として出てきたのが、調査・研究事業に取り組んでみようということでした。

調査・研究事業の開始

平成11年(1999年)度の支部の事業として新たに調査・研究事業を実施することを総会で決定し、その年の6月23日に第1回の調査研究事業委員会を開催しました。

当時の支部の機関紙「診断あきた」第4号(平成11年7月31日発行)の巻頭言で、本間支部長が「調査・

研究事業」を実施する目的・意義について、「会員相互の団結を強めコミュニケーションの円滑化を図ること、企業との結び付きを図り協会の存在を広く知らせること」と述べられています。

幸い、当時の支部会員中7名が地元の金融機関に勤務しており、日ごろから企業との結び付きがあったこと、いずれも30~40代で若手が多かったことから、こうした金融機関勤務の企業内診断士を中心としてメンバーが構成され、事業が進められました。

実際に調査・研究に着手したのは平成12年(2000年)度からでしたが、平成13(2001年)1月に調査・研究事業報告書「中小企業の発展と人材戦略~秋田県内企業の人材戦略に関する調査~」を発刊しました。

この報告書は支部として初めて世に出したもので、秋田魁新報、河北新聞、毎新聞などのマスコミにも記事として取り上げられ反響を呼ぶことが出来ました。

その後も、調査・研究事業は平成26年(2014年)度の「県内中小企業の事業承継に関する実態調査報告書」(秋田県委託事業)の発刊まで継続して実施されました。

この間、組織内診断士中心の活動で事業の実施には多大の労力と困難が伴いましたが、10年以上にわたる調査・研究事業の継続により本間先生が述べられた事業の目的は十分な成果を収めることができたのではないかと思います。

診断士の役割

私は今年、登録を更新しましたが、新しい登録証と一緒に「中小企業診断士の各種申請・届出の手引き及びQ&A」という冊子が送られて来ました。

この冊子の表紙の裏に「中小企業診断士とは」という表題の下に、「診断士の業務と役割について」という記載があります。

診断士の業務については「診断士の業務は、~(前略)現状分析を踏まえた企業の成長戦略のアドバイスが主な業務です(後略)~」とあり、診断士の役割として「診断士は企業の成長戦略の策定について専門的知識をもってアドバイスします。」とあります。

利益の増大なくして企業の成長はあり得ませんが、成長戦略とは、すなわち利益増大のための戦略と言い換えることができるのではないかと思います。

その戦略の策定・実行のアドバイスをすることが診断士の主な業務であり、役割であるということですが、今回改めて認識を新たにしたところです。

最後になりますが、今後は、秋田県内の中小企業の成長戦略のアドバイスに資するという観点から、一層研鑽に努めると共に、微力ではありますが「会員相互の団結を強め、協会の存在を広く知らせる」ための活動に寄与して参りたいと思います。

会員ニーズ調査結果概要

総務委員会

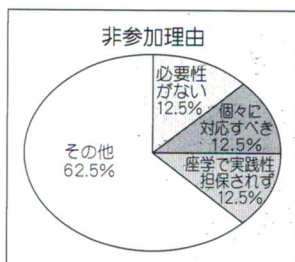
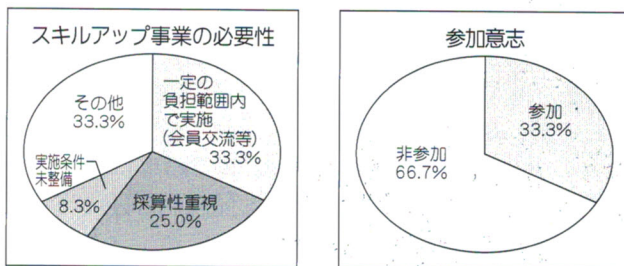
I 調査実施方法

- ①目的
「スキルアップ研修事業」、「プロボノ活動支援実証実験事業」への会員の意向を探る。
- ②調査方式
アンケート表でのメールによる書面調査方式
- ③調査期間
調査票送信 R1・6/15 締切日 R1・6/25
- ④回収率
スキルアップ研修事業 40%
プロボノ活動支援実証実験事業(プロコン) 100%
プロボノ活動支援実証実験事業(企業内) 40%
※会員数 R1・6/15 30
対象数 プロコン 4 企業内 10

II スキルアップ研修事業アンケート結果

1 スキルアップ研修事業の必要性と参加意向

スキルアップ研修事業の必要性は、採算性を条件としながらも認める方向にあるが、研修への参加率は1/3(N=4)と低い。



非参加理由の内、「その他」は、a中小企業大学校等の活用、b費用に負担感、c日程的問題、d研修テーマ・内容・方式に魅力感じない、である。

2 参加希望者が望む研修運営

開催主体は、北東北を想定した隣接県との共催(75.0%)で、研修分野は「政策別・課題別研修」(75.0%)、政策別・課題別研修での望まれるカリキュラムには、強い実践性が求められている。

Q3 開催主体

| | |
|------------|-------|
| 1 単独開催 | 0.0% |
| 2 隣県協会共催 | 75.0% |
| 3 中小企業大学校で | 25.0% |
| 4 その他 | 0.0% |

Q3・2 希望開催主体先

| | |
|---------|-------|
| 1 東北一本化 | 33.3% |
| 2 北東北 | 66.7% |

Q4 重視研修

| | |
|-------------|-------|
| 1 ステージ別研修 | 25.0% |
| 2 政策別・課題別研修 | 75.0% |

Q6 重視する政策別・課題別研修 指摘率

| | |
|-----------|-------|
| 1 事業承継 | 0.0% |
| 2 地方活性化 | 0.0% |
| 3 事業再生 | 0.0% |
| 4 経営革新 | 33.3% |
| 5 創業 | 33.3% |
| 6 小規模事業者 | 0.0% |
| 7 海外販路開拓 | 0.0% |
| 8 ものづくり | 0.0% |
| 9 組織活性化 | 0.0% |
| 10 人材育成 | 0.0% |
| 11 マネジメント | 0.0% |
| 12 上場 | 0.0% |
| 13 M&A | 0.0% |
| 14 その他 | 66.7% |

Q8 研修時間数

| | |
|--------------|-------|
| 1 4時間程度 | 0.0% |
| 2 8時間程度(2日) | 75.0% |
| 3 10時間程度(2日) | 25.0% |
| 4 12時間程度(2日) | 0.0% |

III プロボノ活動支援実証実験事業アンケート結果

1 プロコン側の対応意向

プロコンは経営革新等認定機関に限定した。プロボノ活動支援実証実験事業への協力状況は、「協力できる」と「判断保留」に二分される。報告書の品質チェックは「プロコンに任すべき」との認識で一致している。クリアすべき課題としては、「対象企業確保」が75.0%で、これに「企業秘密保持」、「連携先との信頼関係」、「報告書責任所在」が50.0%で続いている。

Q1 プロボノ活動支援実証事業への協力意向

| | |
|----------|-------|
| 1 協力できる | 50.0% |
| 2 協力できない | 0.0% |
| 3 判断保留 | 50.0% |

Q4 委員会への報告書品質チェック機能の移転

| | |
|----------------|--------|
| 1 許容できる | 0.0% |
| 2 プロコンに任すべきである | 100.0% |
| 3 その他 | 0.0% |

Q6 クリアすべき課題 指摘率

| | |
|----------------|-------|
| 1 対象企業確保 | 75.0% |
| 2 企業秘密保持 | 50.0% |
| 3 連携先との信頼関係 | 50.0% |
| 4 無報酬参加の見直し | 25.0% |
| 5 委員会機能促進 | 0.0% |
| 6 報告書責任所在 | 50.0% |
| 7 スケジュールの弾力的運用 | 25.0% |
| 8 その他 | 25.0% |

2 企業内診断士の対応意向

対象者全員が「判断保留」としている。参加動機として75.0%が「ポイント取得」を上げている。開催回数は2回、日程は3日が望まれている。

Q7 プロボノ活動支援実施事業への参加意思

| | |
|--------|--------|
| 1 参加 | 0.0% |
| 2 不参加 | 0.0% |
| 3 判断保留 | 100.0% |

Q9 ポイント取得の参加動機

| | |
|--------|-------|
| 1 なる | 75.0% |
| 2 ならない | 25.0% |

Q11 クリアすべき課題 指摘率

| | |
|----------------|-------|
| 1 対象企業確保 | 75.0% |
| 2 企業秘密保持 | 0.0% |
| 3 連携先との信頼関係 | 0.0% |
| 4 無報酬参加の見直し | 0.0% |
| 5 委員会機能促進 | 25.0% |
| 6 報告書責任所在 | 75.0% |
| 7 スケジュールの弾力的運用 | 25.0% |
| 8 その他 | 0.0% |

第64回定時総会 出席報告

佐瀬道則



令和元年6月18日(火)、銀座フェニックスビルを会場に連合会本部の「第64回定時総会」が開催されました。

1. 議事及び報告

今年度の議事は以下の通りです。

第1号議案 平成30年度事業報告及び決算承認

第1号報告 令和元年度事業計画及び予算書報告

第2号報告 令和元年度公益目的支出計画報告

以上について、いずれも満場一致で承認、報告は了承されました。

2. 協議・報告内容等について

冒頭、米田会長より今年度は協会創立65周年となること、また引き続き「ブランディング戦略の推進」に取り組み、診断士による専門知識の共有化を推進するとの挨拶がありました。

また議案審議の詳細説明の中で、野口専務理事や事務局から次の点について報告がありました。

① 中小企業診断協会の会員数は平成25年度の9,227名から平成31年4月には10,678名と1,451名の増加となり、増加傾向を維持している。

また受験者数の推移をみると、診断士は2万名台を引き続きキープしており、他土業が軒並み受験者数を減らしている中で一定の水準を維持し、人気は衰えていない。

「診断士バッジ」は、これまで約7,600個を配布済みで着用率が向上しており、会員のみならず対外的にも好評である。

創立65周年を迎える今年度は、中小企業診断士のPR動画の募集等の記念事業を実施する。

② 令和元年度の重点事業の詳細は次の通りです。

1. 診断士のブランディング戦略の推進

- ・ 診断業務の品質の向上
- ・ 中小企業診断士の日(11月4日)のPR活動
- ・ 中小企業診断士バッジ着用の一層の推進
- ・ 中小企業診断士に関するPR動画の募集 他



2. 中小企業診断士による専門知識の共有化の推進

- ・ 企業内診断士の活用促進、調査研究事業、スキルアップ研修、国際交流・協力事業 他



③ 各県協会における会費請求について「法人運営における確認事項」を再度徹底する。診断士登録更新に必要な実務従事の対象に、医業又は歯科医業、社会福祉法人、NPO法人を追加する省令案が提出される。

④ その他、企業内診断士におけるプロボノ活動支援実証実験事業、賠償責任保険、各県協会活動実態調査結果概要などの説明。

最後に中小企業庁の企画官から、「中小企業強靱化法案」提出に関して事業継続力強化に向けた支援で診断士の活躍の場が広がる旨の説明がありました。

3. 懇親会

定時総会終了後、中小企業庁経営支援課長や長官官房企画官等の来賓を迎え、活発な交流と情報交換が行われました。その中で島根、大分、宮崎県協会等とは少人数の協会ならではの悩みを共有することができ、参考になりそうな工夫や取り組みを伺うことができました。

4. 総会に出席して

東北ブロックの代表として全国連理事の2期目に入り、昨年度からは役員選考委員及び広報委員会委員にも選出されました。会員各位には引き続き様々な情報を提供して行きたいと思っております。(以上)



荒 牧 敦 郎

『Think CIVILITY (シンク・シビリティ)
「礼儀正しさ」こそ最強の生存戦略である』
クリスティーン・ポラス 著

この長いタイトルの白い表紙の本が書店で平積みになっているのを見た時、私は佐々木常夫さん（元・東レ経営研究所社長）の言葉を思い出した。佐々木さんはご自身の著書で「礼儀正しさは最大の攻撃力である」というキングスレイ・ワードの言葉を度々引用している。購入して読んでみると、自分の周りの人を大切に、思いやるのが大事であるという基本的な主張は共通しているものの、それを説く観点で両者はやや異なっていた。

佐々木さんが主に「個人」の身の処し方という観点から述べているのに対して、『Think CIVILITY』は主に「組織」のあり方という観点から書かれている。すなわち、この本は「礼節」のある企業は高い業績をあげ、無礼な人がいる企業は大きな損害を被ると、具体的な事例やデータを挙げて説明する。

キーワードである「礼節」とは、心から相手を尊重することを意味する。具体的には、相手に笑顔を向け、丁寧な話し方をし、人の話に熱心に耳を傾けることなどが「礼節」のある言動だ。対義語となる「無礼」とは、他人を見下し侮辱するような言葉を発し、人の話を遮り、近くにいる人に目もくれないといった言動を意味する。パワーハラスメントが代表的な例だろう。

この本によれば、企業内にこうした無礼な人がいるとその影響は破壊的だ。

「職場で誰かから無礼な態度を取られている人について次のようなことが言えるとわかった。

- ・48%の人が、仕事にかける労力を意図的に減らしている。
- ・47%の人が、仕事にかける時間を意図的に減らしている。
- ・38%の人が、仕事の質を意図的に下げている。」

また、無礼な人は、まわりの人の健康を害し、思考能力を下げ、認知能力を下げ、まわりを攻撃的にする。

つまり無礼は巨大なストレスを生む。職場のストレスによりアメリカ経済にかかるコストは1年に5000億ドルにもものぼるといふ。

他方、礼節ある人には、仕事が得やすい、幅広い人脈が築ける、出世の可能性が高まるという3つのメリットがある。さらに、礼節の効用は個人に対するものだけではない。礼節のある企業は、高い業績をあげ、社員に安心感を与える。そのような企業として紹介されたコストコ（小売業）は、従業員ひとりあたりの売上がライバル企業の2倍近く、従業員の定着率が高く、従業員による窃盗は際だって少なく、株価の上昇率はライバル企業をはるかに上回る。

企業ばかりでなく、スポーツチームにとっても礼節が重要であると説明されている。大学バスケットボールの名コーチ、ジョン・ウッデンはチームに加入する選手を選考する際、礼節ある人物かどうかを重視するという。ウッデンはこう言っている。

「重要なことは、人は他人を気遣わねばならないということだ。自分の得のためだけに他人を利用することがあってはならない」

『Think CIVILITY』は、さらに、個人が礼節を高める方法、礼節ある会社になるためのステップ、無礼な人に狙われた場合の対処法も説明している。

かなり前の話だが、私が中小企業診断士になるため勉強をしていた時に、リーダーシップに関する三隅不二の「PM理論」の説明を読んだことを思い出す。この理論は、リーダーシップ機能を集団の目的達成機能であるP(performance)機能と集団の維持機能であるM(maintenance)機能に分け、どの機能が強いかによって、PM、Pm、Mp、pmの4つに分類する。

『Think CIVILITY』の表現を使うと、Pは業績を上げる機能、Mは礼節を高める機能と言い換えることが可能だろう。PM理論では、PもMも高いPM型が最良とするのだが、PとMは別の機能ということが前提となっている。ところが、『Think CIVILITY』は、Pを高めるにはM（礼節を重視する）が高いことが必要と説き、この二つは不可分の関係にあると言っていると理解できる。

パワハラ上司は論外としても、礼節（礼儀正しさ）がどんな組織にとっても重要という主張は、企業やスポーツチームにかかわらず、何らかの組織に属する人にとって、日頃の自分の言動を振り返り、自分が属する組織のあり方を考えるうえで貴重な視点を与えてくれるだろう。

連載



『まちづくり 比較考』

— その2 —

佐瀬道則

シリーズで紹介している各地のまちづくりの事例。前回は「オブジェ」を活かしたスロヴァキアと新潟市古町を取り上げました。

第2回は「ブダペスト」（ハンガリー）と「金沢」を比較してみます。

1. ブダペスト

前回のスロヴァキアと同じ東欧圏に属するハンガリーはヨーロッパ東部の大平原の中にあつて、国土の中央をドナウの大河が流れています。国土は日本の約3分の1、人口は約1千万人ですから12分の1くらいということになります。

小規模で地味なイメージの国ですが、実は日本との共通点がいくつかあつて、温泉大国であること、名前の呼称は姓が先に来ることなど。また姉妹都市を結んだ日本の5都市のうち3都市が秋田県（由利本荘市、鹿角市、湯沢市）という不思議な縁もあります。

首都はブダペストで、私が訪れたのは2009年3月17日の夜、つまりスロヴァキアから国境を越えて入国しました。



スロヴァキアの首都ブラチスラヴァ同様にドナウ川の河畔に開けたブダペストは、川の西岸の「ブダ」地区と東岸の「ペスト」地区を合わせた名前で、両地区をいくつかの橋が結んでいます。

その橋の中でも一番有名なのが「くさり橋」で、王宮のあるブダ地区から見下ろす橋と川の景観がブダペ

ストを代表する景色になっています。

この街の見どころはいくつかありますが、フリータイムを含めて私が見て廻ったのは「市場」「オペラ座」「温泉」「カフェ」などを含めた街並みでした。



ブダペスト最大の市場は「中央市場」で、2階建てですがむき出しの屋根が高く、巨大な体育館か駅舎のような構造でした。

ヨーロッパの市場はどこもそうですが、生鮮はそのままの塊で売っていて、日本のようなトレイに入ったパックは原則ありません。日本の市場ではパック売りも始まっていますが、そういう意味では対面販売である市場の売り方を頑なに守っています。



もう一つは芸術が街のあちこちに息づいていることで、その代表が「オペラ座」。

130年余りの歴史を持つネオ・ルネサンス様式の豪華な建物が、街並みに溶け込むように建っています。数ヶ国語に対応できるスタッフが常駐していて、館内を案内してくれます。私が行ったときは日本語はなく、やむなく英語の案内ツアーを申し込みましたが、言っ

ていることは何となく分かりました。

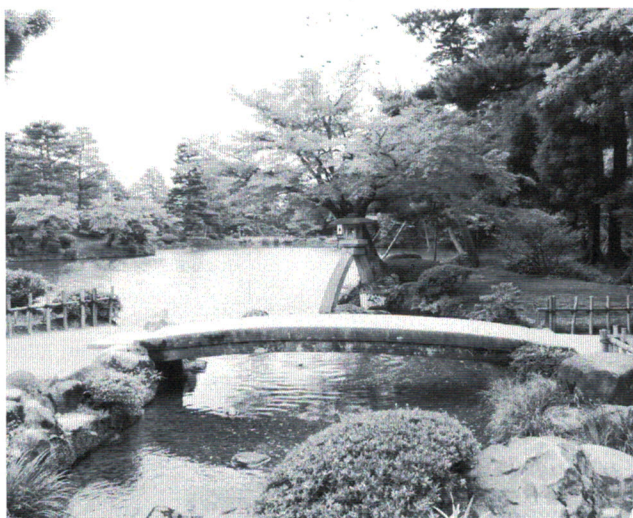
もう一つは温泉で、この国の人たちはとにかく温泉が大好き。もちろん水着着用ですが、お湯に浸かってチェスに興じたり、専用のマイカップを持参して温泉をガブガブ飲む習慣もありました。

2. 金沢

ブダペストの街の見どころと重なる点が多い日本の街は加賀百万石の城下町金沢です。



金沢城址、石川門を中心に開けた街並みは、ブダペストに置き換えれば王宮のあるブダ地区ということになります。



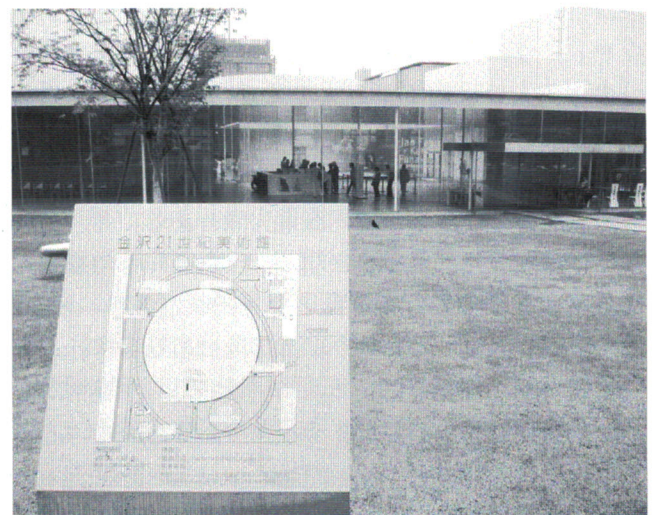
兼六園という名庭園も金沢の見どころの一つですが、池と琴柱燈籠という庭園美もさることながら、高台にあるこの庭から見下ろす金沢の街並みの景観も見応えがあります。

ドナウの大河とくさり橋はじめ様々な橋梁、そこを行き交う船運の眺めがブダペストなら、サイズは小さいものの浅野川、武家屋敷、茶屋街といった古い町並

みと更にそれらを凝縮したような兼六園の庭園が金沢の魅力です。



金沢市民の台所は「近江町市場」で、北陸新幹線開業後はバブルのような賑わいになりました。



そして芸術面は「金沢21世紀美術館」や「能楽美術館」「九谷焼」といった新旧の芸術の殿堂が揃い、後背地に山代、山中、和倉といった温泉地を抱えるのも金沢の特徴でブダペストに重なる要素があります。

3. バランスの取れた街並み

二つの街に共通しているのは、歴史と伝統を活かしながら市民生活も芸術も自然も「まちづくり」の中に取り込んでいる点です。その街にもともとあったものを活かして磨き上げ、そこに現代的な要素も付加して行く。そのために必要になるのは「軸がぶれないまちづくりの方針」です。時代が変わっても、首長や議員が替わっても、市民が世代交代をしても、常に方針が一貫していれば、このように素敵な街並みができることを二つの街は証明しています。(以上)

一般社団法人 秋田県中小企業診断協会

令和元年度 定時総会開催

令和元年5月18日(土)、午後3時30分より「かまくら家」において、一般社団法人 秋田県中小企業診断協会令和元年度定時総会を開催致しました。

会員32名中、25名(内委任状出席5名)の出席を得て会議は成立し、佐瀬道則会長が議長席につき、定刻に会議を開始致しました。

議案審議に入り、「第1号議案 平成30年度事業活動及び決算承認に関する件」について、議長は専務理事に説明を求め、成田広樹監事が監査報告を行った後、総会に諮り、原案は満場一致で決可承認致されました。

事業活動では、会員数は残念乍ら期中2名の減少で32名規模になったこと、3回の理事会開催があったこと、オープンセミナー2回(H30・6/30、7/21)・“しんだんしフェスタ2018”(H30・11/10)に、延べ101名の参加を得たこと、各支援機関に会員の斡旋紹介を行ったこと等の説明がありました。

「第2号議案 役員選任に関する件」では、理事に荒牧敦郎、石川聡、小笠原浩之、鎌田晶子、佐瀬道則、佐藤善友、高橋彦、富野忠雄、樋口清行会員を再任しました。監事には、熊井春美、成田広樹会員を再任しました。直ちに開催した理事会で、代表理事に佐瀬道則理事を選任し、総会に報告しました。事務局長には、佐藤徹会員を再任しました。

続いて、報告事項として「第1号報告 令和元年度



令和元年度定時総会

事業計画及び予算収支計画」を報告しました。

事業計画では、講演会をオープンセミナー2回(R1・6/29・7/27→変更:8/3)、“しんだんしフェスタ2019”(R1・11/9)、とイベントを3回開催予定であること、政策提言の場の設置を検討する予定であること、令和元年度の北海道・東北ブロック会議は本年度当協会が当番県であること等の説明がありました。

引き続き、佐藤和男東北経済産業局産業部経営支援課長を講師に迎え、「令和元年度東北経済産業局中小企業支援策概要について」の講演を、会員の他、来賓の参加も頂き開催致しました。



佐藤和男東北経済産業局経営支援課長講演

講演会に引き続き行われた情報交換会には、佐藤和男東北経済産業局産業部経営支援課長の他、加藤慶美秋田県産業労働部産業政策主幹、岩澤道隆(公財)あきた企業活性化センター理事長、伊藤登志雄秋田県信用保証協会常勤理事、佐藤和憲秋田県中小企業再生支援協議会統括責任者、築田征光秋田県事業引継ぎ支援センター統括責任者補佐、三平久孝秋田県商工会連合会事務局長、畠山頼仁秋田県中小企業団体中央会事務局長の各氏の参加を頂き、活発な情報交換を行いました。



講演会風景

《令和元年度の主な事業》

1. 県協会の認知度向上に向けて

(1)広報活動の強化・充実

会報誌(No.27)の発行や、会員の使い勝手を重視してリニューアルしたホームページにより、積極的な情報発信を行う。

・会報の発行(R1・9/1 No.27)

・ホームページでの情報発信(随時)

(2)県及び中小企業支援機関との意見交換

(3)“しんだんしフェスタ”の開催

中小企業診断士の日(11月4日)制定に伴い、中小企業診断士制度のPRを行う。

<講演会>

開催時期 R1・11/9(土) 15:30~17:00

場 所 アトリオン 多目的ホール A

演 題 伝えたい思いを形にする

講 師 渡邊 康衛 氏

福祿寿酒造(株) 代表取締役社長

2. 切磋琢磨に向けて

(1)中小企業診断士登録更新研修(理論政策更新研修)の実施

R1・9/7(土) 13:00~17:10 遊学舎 会議室

☆新しい中小企業政策について(中小企業政策)

☆ITの利活用支援(診断理論・事例研究)

(2)オープンセミナーの開催

県協会への御支援に感謝し、会員外へも無料開放し、会員外との切磋琢磨の場を提供する。

①定時総会講演会

開催日 R1・5/18(土) 16:30~17:00

場 所 かまくら家

②第1回オープンセミナー講演会

開催日 R1・6/29(土) 15:00~17:00

場 所 AUアート工房No.1

③第2回オープンセミナー講演会

開催日 R1・8/3(土) 15:00~16:00

場 所 アトリオン 多目的ホール A

3. 受託事業の実施

高度化診断事業等を受託・実施する他、産業廃棄物許可関連診断業務の会員への斡旋を行う。

《主要事業スケジュール》

H31・4/6(土) 監査会開催 遊学舎研修室No.1

H31・4/27(土) 理事会(No.1) 遊学舎大広間

R1・5/18(土) 定時総会 かまくら家

R1・5/18(土) 東北経済産業局経営支援課長講演

かまくら家

R1・6/18(火) 本部第64回総会

R1・6/29(土) オープンセミナーNo.1

アトリオン 多目的ホール A

R1・8/3(土) オープンセミナーNo.2

アトリオン 多目的ホール A

R1・8/31(土) 研修委員会開催 遊学舎応接間

R1・9/1(日) 会報「診断あきた」No.27号発行

R1・9/7(土) 令和元年度登録更新研修会

遊学舎会議室

R1・10/25(金) 北海道東北ブロック事務連絡会議

R1・11/9(土) しんだんしフェスタ2019 15:30~17:00

アトリオン 多目的ホール A

R2・3/28(土) 理事会(R2FY事業計画及び収支予算)

平成30年度活動実績

表-1① 総会・理事会等

| 月日 | 事業名 | テ ー マ | 対 応 者 | 場 所 |
|------------|------------|------------------------------|-------------------|--------------|
| 2018/4/14 | 監査会 | 平成29年度決算に関する件 | 監事・総務G | 遊学舎研修室No.1 |
| 2018/4/18 | 監査会 | 平成29年度決算に関する件：補足 | 監事・総務G | なかいち研修室No.3 |
| 2018/4/21 | 理事会(No.1) | 平成30年度定時総会の件、新規加入会員の件 | 理事・監事・事務局長(7+1) | 秋田市文化会館第2会議室 |
| 2018/5/12 | 平成30年度定時総会 | 平成29年度決算承認、役員選任、平成30年度予算報告他 | 会員34名中27名(内委任状6名) | とと丸 |
| 2018/7/21 | 理事会(No.2) | 年度途中退会者の会費等に関する件 | 理事・監事・事務局長(8+1) | 秋田市文化会館第4会議室 |
| 2018/10/26 | 総務 | 北海道東北ブロック事務連絡会議 | 会長・専務 | |
| 2019/3/23 | 理事会(No.3) | 平成31年度事業計画&予算の件、設立35周年記念事業の件 | 理事・監事・事務局長 | 遊学舎研修室No.1 |

表-1② 会長日程

| 月日 | 事業名 | テ ー マ | 対 応 者 | 場 所 |
|------------|---------|-------------------------|-------------|-----------------|
| 2018/5/23 | 総務 | 中小企業診断士会館取締役会、本部理事会 | 会長 | 本部6F会議室 |
| 2018/5/29 | 総務 | (公財)あきた企業活性化センター理事会 | 会長 | ルポールみずほ3F |
| 2018/6/18 | 各県代表者会議 | 本部役員選考委員会、本部総会 | 会長 | 銀座フェニックスプラザ大会議室 |
| 2018/8/31 | 総務 | 本部広報委員会 | 会長 | 本部6F会議室 |
| 2018/9/9 | 総務 | 東北ブロック米田会長就任祝賀会 | 会長 | 仙台ガーデンパレス |
| 2018/9/21 | 総務 | 本部理事会 | 会長 | 本部6F会議室 |
| 2018/11/12 | 総務 | 秋田県司法行政職能団体連絡協議会出席 | 会長 | パークホテル |
| 2018/11/13 | 総務 | 本部理事会 (H31BYブロック会議開催日他) | 会長 | 本部6F会議室 |
| 2018/11/15 | 総務 | 秋田県女性起業家大賞審査会 | 会長 | 秋田商工会議所会議室 |
| 2018/12/20 | 総務 | 本部理事会 | 会長 | 本部6F会議室 |
| 2019/1/24 | 総務 | 秋田県女性起業家大賞表彰式 | 会長 | 秋田キャッスルホテル |
| 2019/2/8 | 総務 | 本部広報委員会 | 会長 | 本部6F会議室 |
| 2019/3/14 | 総務 | 本部理事会 | 会長 | 本部6F会議室 |
| 2019/3/25 | 総務 | (公財)あきた企業活性化センター理事会 | 会長 | ルポールみずほ3F |

表-1③ 正副会長・事務局長協議

| 月日 | 事業名 | テ ー マ | 対 応 者 | 場 所 |
|------------|---------|-----------------------------------|-------------|--------|
| 2018/6/7 | 会員紹介事業 | 商工連北部事業承継センターコーディネーター事業推薦協議 | 四役 | |
| 2018/6/29 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.26掲載原稿協議 | 四役 | |
| 2018/6/30 | 総務 | 再生支援協議会全体会議報告 | 四役 | |
| 2018/7/7 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.26原稿検討 | 四役 | |
| 2018/7/9 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.26原稿検討 | 四役 | |
| 2018/9/7 | 自主事業 | しんだんしフェスタ2018講演追加連絡 | 四役 | |
| 2018/10/31 | 総務 | 北海道東北ブロック事務連絡会議概況報告 | 四役 | |
| 2019/2/15 | 更新研修 | 2019FY理論政策更新研修 診断理論&事例研究テーマ決定 | 四役 | |
| 2019/2/17 | 総務 | 小池会員退会(2019・2/12)連絡 | 四役 | |
| 2019/2/27 | 自主事業 | 2019オープンセミナーNo.1 概要 | 四役 | |
| 2019/3/5 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.27編集方針検討 | 四役 | |
| 2019/3/20 | 総務 | 本部長表彰推薦審査 | 四役 | |
| 2019/3/20 | 総務 | 2019オープンセミナーNo.1 会場確保連絡 AUワークNo.1 | 四役 | |
| 2019/3/25 | 総務 | 年度途中退会会員事務処理方針確認 | 四役 | |
| 2019/3/27 | 総務 | 年度末会員動向把握 | 四役 | |
| 2019/3/29 | 総務 | 年度末会員動向情報共有 | 四役 | |

表-1④ 研修委員会

| 月日 | 事業名 | テ ー マ | 対 応 者 | 場 所 |
|------------|---------------|-----------------------------------|-------------|------------------|
| 2018/6/30 | 自主事業 | オープンセミナーNo.1 齊藤光学製作所経営の考え方 | 会員、外部参加者 | アトリオン多目的ホールC 35名 |
| 2018/7/21 | 自主事業 | オープンセミナーNo.2 秋田県再生への私見 | 会員、外部参加者 | 秋田市文化会館第4会議室 18名 |
| 2018/9/5 | 更新研修 | 更新研修 60名参加 | 会員、非会員 | 遊学舎会議室 |
| 2018/9/7 | 自主事業 | しんだんしフェスタ2020講演追加連絡 | 研修委員会 | |
| 2018/11/10 | しんだんしフェスタ2018 | 講演 経営発達支援計画の概要について | 研修委員 | アトリオン多目的ホールC 33名 |
| 2018/11/10 | しんだんしフェスタ2018 | 講演 ドチャベン 秋田発の起業家創出に向けた取り組み | 研修委員 | アトリオン多目的ホールC 33名 |
| 2019/2/15 | 更新研修 | 2019FY理論政策更新研修 診断理論&事例研究テーマ決定 | 研修委員会 | 遊学舎会議室 60名 |
| 2019/2/27 | 自主事業 | 2019オープンセミナーNo.1 概要 | 研修委員会 | |
| 2019/3/20 | 総務 | 2019オープンセミナーNo.1 会場確保連絡 AUワークNo.1 | 研修委員会 | |

表-1⑤ 広報委員会

| 月日 | 事業名 | テ ー マ | 対 応 者 | 場 所 |
|-----------|---------|-----------------------|-------------|--------|
| 2018/5/8 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.26編集方針と割付 | 会報誌委員会 | |
| 2018/6/19 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.26原稿締切期限連絡 | 会報誌委員会 | |
| 2018/6/26 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.26原稿検討 | 総務G | |
| 2018/7/3 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.26原稿検討 | 会報誌委員会 | |
| 2018/7/7 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.26原稿検討 | 会報誌委員会 | |
| 2018/7/9 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.26原稿検討 | 会報誌委員会 | |
| 2018/10/5 | 会報誌発行事業 | 会報誌No.26関係機関等へ郵送 171先 | 広報・会報誌委員 | |

表-1⑥ 網紀委員会

| 月日 | 事業名 | テ ー マ | 対 応 者 | 場 所 |
|-----------|-----|------------------------|-------------|--------|
| 2018/4/7 | 表彰 | 平成30年度本部長表彰者推薦 ~該当者なし~ | 網紀委員会 | |
| 2019/3/20 | 総務 | 本部長表彰推薦審査 | 網紀委員会 | |

表-1⑦ 総務委員会

| 月日 | 事業名 | テ ー マ | 対 応 者 | 場 所 |
|-----------|--------|--------------------------------|-------------|--------|
| 2018/5/2 | 会員紹介事業 | 医工連ものづくり事業Co推薦方針協議 | 総務委員会 | |
| 2018/5/9 | 会員紹介事業 | 医工連ものづくり事業Co推薦者協議 | 総務委員会 | |
| 2018/6/8 | 会員紹介事業 | 商工連北部事業承継センターコーディネーター事業推薦協議 | 総務委員会 | |
| 2018/6/24 | 総務 | 年度途中退会者の会費&再入会への基本方針協議 | 総務委員会 | |
| 2018/7/7 | 総務 | 平成30年度第2回理事会提出議案検討 | 総務委員会 | |
| 2018/7/18 | 会員紹介事業 | 商工連北部事業承継センターコーディネーター事業後任者推薦協議 | 総務委員会 | |
| 2018/8/1 | 会員紹介事業 | 公衆衛生課公衆浴場経営調査担当者選定協議 | 総務委員会 | |
| 2018/9/7 | 自主事業 | しんだんしフェスタ2019講演追加連絡 | 総務委員会 | |
| 2018/9/20 | 会員紹介事業 | 厚労省営業モデル事業対応者推薦方式協議 | 総務委員会 | |
| 2018/9/24 | 会員紹介事業 | 厚労省営業モデル事業推薦者協議 | 総務委員会 | |
| 2018/10/5 | 会員紹介事業 | N社経営診断申込受領 | 総務委員会 | |
| 2018/10/8 | 会員紹介事業 | N社経営診断推薦者協議 | 総務委員会 | |
| 2019/2/15 | 会員紹介事業 | BCP認定審査員推薦方針協議 | 総務委員会 | |
| 2019/2/22 | 会員紹介事業 | BCP認定審査員推薦者選定協議 | 総務委員会 | |

令和元年度 理論政策更新研修開催案内

理論政策更新研修は、中小企業診断士更新要件のひとつである「新しい知識の補充に関する要件」のために実施する研修です。登録の有効期間5年間で5回の受講が必要です。

令和元年度秋田地区の理論政策更新研修を、次の日程により開催致します。

なお、秋田地区の受付は、前年度同様、(一社)中小企業診断協会本部が直接行います。

日時 令和元年9月7日(土)
13:00~17:10

場所 遊学舎(秋田県ゆとり生活創造センター) 会議室
〒010-1403
秋田市上北手荒巻字堺切24-2

カリキュラム

13:00~14:00 新しい中小企業政策について
講師 羽川 彦禄 氏 秋田県産業労働部産業政策課デジタルイノベーション戦略室長
14:05~15:35 (診断理論) ITの利活用支援
講師 村上 知也 氏 中小企業診断士
15:40~17:10 (事例研究) ITの利活用支援
講師 村上 知也 氏 中小企業診断士
《研修のねらい》
中小企業では、生産性向上を目的としたIT利活用

への取組が期待されている。ITを導入する上でのセキュリティや業務の見える化等の課題を克服し、ITを効果的に活用して生産性を向上させるための支援について、事例を交えて研修する。

※募集期間 R1・7/29(月)~8/31(土)

受講料 6,000円

申込先 一般社団法人 中小企業診断協会
《東京都中央区銀座1-14-11》

ネット申込可能 <http://www.j-smeca.jp/>



平成30年度更新研修風景

しんだんしフェスタ&オープンセミナー&研究会のお知らせと結果報告

【しんだんしフェスタ2019の御案内】

1. 開催趣旨

一般社団法人中小企業診断協会(本部)は、11月4日を「中小企業診断士の日」と定め、この日を中心に全国的に診断士制度のPRを行っています。

当協会では、この趣旨を踏まえ、また、日頃の県、市町村、商工会議所、商工会等中小企業経営支援機関、県内中小企業経営者の皆様からの数々の御支援に感謝し、「しんだんしフェスタ」を、本年度も実施致します。

2. 構成

演題 伝えたい思いを形にする

講師 渡邊 康衛 氏
福祿寿酒造(株)代表取締役社長

開催時期 R1・11/9(土) 15:30~17:00

場所 アトリオン多目的ホールA

※HP <http://www.shindan-akita.com>

【オープンセミナーの御案内】

毎年、県内中小企業診断士及び県内中小企業支援機関スタッフの皆様と共に研鑽し合う場として、オープンセミナーを無料で開催致しております。

☆第1回オープンセミナー講演会

開催日 R1・6/29(土) 15:00~17:00

場所 AUアート工房No.1

演題 中小企業経営診断システム(McSS)について

講師 松本 洋正 氏 (一社)CRD協会営業推進第二部長 (中小企業診断士)

☆第2回オープンセミナー講演会

開催日 R1・8/3(土) 15:00~16:00

場所 アトリオン多目的ホールA

演題 ぼくらの、まちのコンテンツづくり

講師 東海林 諭宣 氏
(株)See visions 代表取締役社長

【フェスタ・セミナー・研究会講演参加申込先】

オープンセミナーの開催区分毎に、受講者氏名、連絡先メールアドレスを明記し、次のアドレス迄お申し込み下さい。(様式自由)

tomino-f@tune.ocn.ne.jp



R1 オープンセミナーNo.1 McSSについて

● 会 員 一 覧 ●

(五十音順、敬称略、令和元年総会時)

| 氏 名 | 所 属 | 相談対応連絡メール |
|---------|--------------------------|--|
| 荒 牧 敦 郎 | (株)あきぎんリサーチ &コンサルティング | |
| 石 川 聡 | (株)あきぎんリサーチ &コンサルティング | |
| 伊 藤 朗 | (株)ABCオフィス | abc-office@voic e.ocn.ne.jp |
| 小笠原 貴 史 | フォームズ(株) | ogasawa@nifty. com |
| 小笠原 浩 之 | 中小企業診断士 小笠原浩之事務所 | izo04430@oran ge.plala.or.jp |
| 鎌 田 晶 子 | 秋田県よろず 支 援 拠 点 | |
| 川 辺 健 一 | 北 都 銀 行 | |
| 工 藤 義 和 | 工 藤 事 務 所 | |
| 熊 井 春 美 | (株)いなにわホーム | kuma@cna.ne.jp |
| 栗 林 祐 治 | 北 都 銀 行 | |
| 櫻 田 誠 二 | 北 都 銀 行 | |
| 佐々木 正 記 | (福) 青 嵐 会 | |
| 佐 瀬 道 則 | M S コ ン サ ル | michinori1217 @yahoo.co.jp |
| 佐 藤 徹 | 秋 田 県 庁 | |
| 佐 藤 善 友 | (有) G F C | gfc@gfcweb.info |
| 柴 田 淳 | 秋田県中小企 業団体中央会 | |
| 杉 山 健 一 | 秋 田 銀 行 | |
| 高 橋 彦 | 中小企業診断士 高橋彦事務所 | gencomisato@ya hoo.co.jp |
| 高 橋 佑 輔 | 大学院在学中 | yusuke@basemi rai.jp |
| 富 野 忠 雄 | 中小企業診断士 富野忠雄事務所 | tomino-f@tune. ocn.ne.jp |
| 成 田 広 樹 | 高井会計事務所 | |
| 袴 田 貴 | 袴 田 貴 税 理 士 事 務 所 | ta-hakama@ball. ocn.ne.jp |
| 長谷川 晃 | アーセプトコン サルティング(株) | |
| 畑 沢 健 | 北 都 銀 行 | |
| 樋 口 清 行 | 中小企業診断士 樋口清行事務所 | dogenzen@hana. or.jp |
| 藤 崎 學 | 藤崎ビジネスサ ポートオフィス | fujji-mnb@uranu s.dti.ne.jp |
| 藤 嶋 智 | 秋 田 県 庁 | |
| 古 木 智 | 秋 田 不 動 産 サ ー ビ ス (株) | |
| 堀 辰 生 | 秋 田 市 役 所 | |
| 三 浦 雅 人 | 秋 田 銀 行 | |
| 山 崎 孝 二 | 中小企業診断士 山崎孝二事務所 | ymzk-425@cna. ne.jp |
| 吉 田 雅 史 | 税理士法人 ザイム・ゼロ 佐藤会計事務所 | yoshida-inc@akita kaikai.jimusho.jp |

所 属 委 員 会

(敬称略)

☆ 総務委員会 ☆

委員長：富野 忠雄
副委員長：石川 聡
委員：小笠原 浩之、佐藤 徹
古木 智

☆ 研修委員会 ☆

委員長：高橋 彦
副委員長：鎌田 晶子
委員：畑沢 健、三浦 雅人

☆ 広報委員会 ☆

《会報誌担当》

委員長：樋口 清行
委員：杉山 健一、山崎 孝二

《ホームページ運営担当》

委員長：佐藤 善友
委員：小笠原 貴史、櫻田 誠二

☆ 綱紀委員会 ☆

委員長：荒牧 敦郎
副委員長：成田 広樹
委員：栗林 祐治、藤崎 學
堀 辰生

編集後記

昭和59年9月、(社)中小企業診断協会東北支部秋田県支会として、会員9名で産声を上げて35年目を迎えました。移り行く時の流れの中での先達の努力と、これ迄御支援頂いた関係機関及び関係者の皆様に深く感謝致します。

本号では、設立当初の想いを語って頂くと共に、その志を承け、新たな令和の時代に繋げたいと考えております。今後共、宜しく御支援の程、お願い申し上げます。